

1 社会・治安情勢

- (1) カラチ市内では2013年9月以降、治安機関がパキスタン・タリバーン運動（TTP）等の武装集団を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図っているほか、3月11日には、準軍部隊レンジャーがシンド州を基盤とする政党「統一民族運動（MQM）」の本部を急襲し、大量の武器を押収、多数の重大事件被疑者を逮捕したことにより、凶悪犯罪が減少し、治安の回復が謳われている。しかしながら5月13日、イスラム教シーア派教徒の乗ったバスが武装集団に襲撃され、バス乗客等59人が死傷する事件が発生、テロの脅威が顕在することを示した。また、殺人事件の発生件数は大きく減少する一方、強盗、窃盗等の一般犯罪の発生件数は微減であり、引き続き注意が必要である。
- (2) バロチスタン州では、4～6月も引き続き治安機関によるテロ集団掃討作戦が継続され、多くのテロ集団幹部の逮捕、投降等あるものの、宗教過激派や民族主義武装集団による異宗派、移民、治安機関等を対象にした標的殺人や爆弾テロは依然多発している。現在もバロチスタン州は治安機関とテロ集団が臨戦状態になっており、治安情勢は極めて悪い。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪統計

シンド州警察が発表した本年4～6月の犯罪統計によれば、カラチ市内における掃討作戦の成果により、殺人事件の発生件数は大きく減少している一方、強盗、窃盗等の一般犯罪の減少幅は小さいことから、犯罪発生件数は合計で9,821件と、前年（9,822件）とほぼ同数となっており、治安が依然回復していないことを示している。主な犯罪種別の内訳は以下のとおり（カッコ内は前年同期）。

- ・ 殺人 192件（620件）
- ・ 誘拐 446件（447件）
- ・ 暴動 200件（232件）
- ・ 強盗 1,129件（1,303件）
- ・ 窃盗 1,308件（1,431件）
- ・ 武器不法所持 1,790件（1,440件）
- ・ 交通死亡事故 106件（68件）

治安機関によるテロリストや殺人犯などの集中取締り（掃討作戦）の効果により、殺人や他の主な犯罪件数は前年に比べると減少しているものの、宗派間抗争や、民族抗争に起因する標的殺人や爆弾テロなどは市内各所で発生しており、現場に居合わせた邦人が事件に巻き込まれるおそれがある。

(2) 邦人関連被害事案

5月26日、カラチ市サダル地区のサダルマーケット付近路上で、パキスタン人運

転手が駐車した日系企業所有車両の後部座席の窓ガラスが割られ、車内からオーディオ／ビデオシステム一式（時価175,000円相当）が窃取された。

3 主なテロ・爆弾事件発生状況

(1) シンド州・カラチ

ア 4月16日、パキスタン人配偶者を持つ米国人の大学副学長が、カラチ市クリフトン地区で車両を運転中、バイクに乗った4人の男に銃撃され負傷した。現場にはI S I Lへの同調を示す紙片が残されていた。

イ 4月24日、パキスタン人権活動家が、カラチ市クリフトン地区で車両を運転中に銃撃を受け死亡、同乗していた母親が負傷した。被疑者1名が逮捕されているが、事件の背景は不明である。

ウ 5月1日、カラチ市ビン・カシム地区で、市内における武装集団掃討作戦を担当する警察幹部の乗った車両がオートバイに乗った武装集団に銃撃され、同幹部等4人が死亡した。T T Pが犯行声明を出した。

エ 5月2日、警察がカラチ市キアマリ地区を捜索したところ武装集団と銃撃戦になり、T T P構成員4人を射殺、武器数点を押収した。

オ 5月13日、カラチ市グルシャネ・イクバル地区で、武装集団がイスラム教シーア派教徒の乗ったバスを襲撃、45人が死亡、約10人が負傷した。T T Pの分派組織であり、I S I Lに忠誠を表明している武装組織「ジュンダッラー」が犯行声明を発出した。既に被疑者数名が逮捕されているが、事件の背景は明らかになっていない。

カ 5月15日、カラチ市マリール地区で、オートバイに乗った男が警察幹部の乗った車両を銃撃し、同幹部が死亡、同乗者1人が負傷した。

キ 5月22日、カラチ市バルディア地区で、警察が武装集団「ウマル・ホラサニ」の拠点を捜索したところ銃撃戦となり、武装戦闘員4人を射殺した。

ク 5月25日「武装組織がテロ攻撃を計画中」との情報を入手した準軍組織レンジャーが、カラチ市オランギ地区を捜索したところ銃撃戦となり、T T P構成員5人を射殺、1人を逮捕、多数の武器を押収した。また、現場で武装戦闘員1人が自爆した。

ケ 5月26日、レンジャーがカラチ市サイト地区を捜索したところ銃撃戦となり、武装集団「バロチスタン解放軍（B L A）」構成員1人を射殺、武器、違法薬物等を押収した。

コ 5月27日、シンド州ハイデラバード市街地を列車が通過した直後に爆発が発生し、線路が損壊した（死傷者なし）。

サ 6月9日、カラチ市ビン・カシム地区を走行中の警察幹部の乗った車両がT T P構成員4人に銃撃され、同幹部が死亡した。10日、警察は被疑者のうち2人を逮

捕した。

シ 6月10日、レンジャーがカラチ市ビン・カシム地区を搜索したところ銃撃戦となり、武装組織「ラシュカレ・ジャングヴィ（LeJ）」構成員2人を射殺、武器数点を押収した。

ス 6月13日、警察がカラチ市マリール地区を車両で移動中、車両に乗った武装集団に銃撃された。警察は応戦し、TTP構成員4人を射殺した。

（2）バロチスタン州

ア 4月11日、バロチスタン州トゥルバットのダム工事現場の宿泊施設で武装集団が銃を乱射し、就寝中のパンジャブ州とシンド州出身の労務者20人が死亡、3人が負傷した。

イ 4月26日、バロチスタン州シビの野菜市場近くで、駐車中のオートバイに仕掛けられた爆弾が爆発し、4人が死亡、20人が負傷した。

ウ 4月27日、オートバイに乗った武装集団がクエッタ市サテライト地区において、イスラム教シーア派教徒3人を銃撃して殺害した。

エ 5月22日、クエッタ市カンブラニ・ロード地区を走行中の辺境警備隊（FC）の車列付近で、路肩に仕掛けられた爆弾が遠隔操作により爆発し、FC8人が負傷した。

オ 5月24日、バロチスタン州ラスベラで道路脇のオートバイに仕掛けられた爆弾が遠隔操作により爆発し、3人が死亡、警察官等15人が負傷した。この爆発はフセイン大統領の子息の車列を狙ったものと見られているが、子息に怪我はなかった。6月3日、本件被疑者として、BLA構成員1名が逮捕された。

カ 5月27日、クエッタ市メコンギ・ロード地区の商店を、オートバイに乗った武装集団が銃撃し、イスラム教シーア派教徒3人が死亡、1人が負傷した。

キ 5月29日、バロチスタン州マストゥングにおいて、武装集団が長距離バス2台を銃撃し、パシュトゥーン人の乗客約30人を誘拐、うち19人を殺害した。

ク 6月7日、クエッタ市バッチャ・カーン・チョウク地区の繁華街にある喫茶店において武装集団が自動小銃を乱射、イスラム教シーア派教徒5人が死亡した。

ケ 6月30日、FCがバロチスタン州アワランの武装組織「バローチ解放戦線（BLF）」の拠点を搜索したところ銃撃戦となり、BLF構成員13人が死亡、数人が負傷、大量の武器弾薬が押収された。

コ 6月30日、陸軍機関「フロンティア・ワークス」の車列が幹線道路を走行中、路傍に仕掛けられた爆弾が遠隔操作により爆発、少なくとも機関員3人が負傷、車両3台が損壊した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した4～6月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目

的誘拐は１５件（前年同期２７件）、身代金目的以外誘拐・略取は４０７件（前年同期４７２件）、児童誘拐は２４件（前年同期３１件）発生している。邦人が被害となる誘拐事件は発生していないものの、テロ組織が資金獲得のため犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で売り渡す場合もある。在留邦人を含む外国人が誘拐された場合には事件が長期化する傾向が強いので、当地で生活する上で誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

５ 日本企業の安全に関する諸問題

（１） 渡航の際の留意事項

当地では現在、武装集団に対する取締り強化により、治安の改善が謳われているものの、テロの標的がソフトターゲット（攻撃が容易な市民等）に移行しているとも言われていることから、当地へ渡航する場合は、事前に報道等により最新の治安情報を入手するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、充分検討していただきたい。

（２） 駐在される場合

当地ではテロの危険性があるほか、強盗等の路上犯罪も頻発している状況であり、車上狙い等の窃盗被害に遭う在留邦人も後を絶たない。また、武装集団による営利誘拐等の可能性も否定できない治安状況であることから、当地に滞在される場合は、必ず当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策をとっていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合には、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。